



茶話〜タイムズ

Vol.09

2021年12月
発行



発行元：奈良市地球温暖化対策地域協議会(NEW)



アメリカの価格を1としてNEWが作成

グマック指数 (マクドナルドで販売されているビッグマック1個の価格を比較する指数) を図にすると、日本の価格は2001年から安値安定が

今まで、それほど物価は高くならなかったのに、この頃は、ちよつとひど過ぎるように思いませんか。この先の生活、どうしたらいいの心配になってきました。

ところで、日本の暮らしでは、海外と比べると違いがあるみたいです。例えば、各国の経済力を測るビッグマック指数

どうなるの？ 物価上昇



続いています。もちろん、各国のマツクの値段を比較したので、図では為替の変動も入っています。でも、何となく海外との物価変動の違いは感じられると思います。

物価が安定した国なのに、なぜ急に高騰しているのでしょうか。

日本は、化石燃料の大部分を輸入に頼っています。原油高と言われる世界の変化は、その影響をどつぷりと受けてしまいます。

エネルギーは、私たちの暮らしでも電気やガス・ガソリンなどで使っていますが、店舗に商品が並ぶまででも、ビルハウスや製造工程、流通や保管に多くのエネルギーが使われていますから、このような様々な積み上げが購入価格を高めていることでしょう。

せめて、家計を圧迫する光熱費は下げようガンバって、消費者の暮らしを守りましょうか。

節約の気持ちで省エネをすることも、ちよつとした賢い行動です。

エネルギーを賢く選択！



エネルギーを「大切に」使うことは、二酸化炭素の削減で脱炭素への社会貢献をしているのです。

あなたの行動が、次の世代も豊かに暮らせる地球を守ることに繋がります。



省エネ型などの製品やサービス、移動行動について「買い選択」をしようという国民運動で、一般的には省エネ機器の買い替えやエコ住宅などへの転換です。そして、「再生可能エネルギーの利用」として、再生電力への切り替えも買い選択の一つです。

地球は？ 世界は？

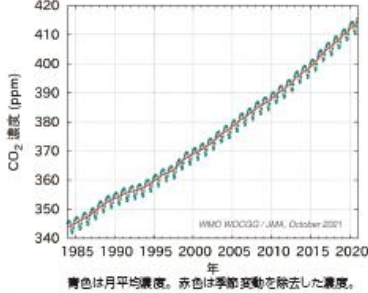


地球の二酸化炭素は、今どのように
なっているのでしょうか？

国際エネルギー機関は、2020年の世界の二酸化炭素排出量が約32（ギガトン炭素）になったと発表しました。2019年と比べて約2（ギガトン炭素）減少したとのこと。コロナ禍での世界的な厳しい経済封鎖や自粛行動で、そうだったのでしょうか。

地球全体の二酸化炭素の経年変化

気象庁ウェブサイトより



青色は月平均濃度。赤色は季節変動を除去した濃度。
転載：https://ds.data.jma.go.jp/ghg/kanshi/ghga/cc2_trend.html

しかしながら、世界気象機関は、2020年の大気中の二酸化炭素濃度が過去最高を更新したと発表しています。2019年から2.5 PPM増えています。

えっ。排出量が少なくなったのに増えた？それって、「お砂糖を減らしたのに甘さが濃くなった」、そのような料理ということ？

お砂糖を減らすと5時間後に甘味が下がる料理みたいですよ。太陽照射が最もきつい夏至から2か月後、遅れて8月になってから猛暑日が続くように。

真鍋淑郎博士は、この複雑な気候変動の予測（地球温暖化の解析、手法）を科学的に示してノーベル物理学賞を受賞されました。おめでとーございませう。

このような事態のため、世界では『気候危機』という言葉も使われて、脱炭素社会への動きを加速させています。燃料種類について、化石燃料から非化石燃料への切り替えに、今までの経済構造がギンギン音を立てています。困ったことに、『気候危機』への急速変化は、燃料コストを高くする原因でもあります。

そう、市民生活に直結した光熱費だけでなく、燃料コストはあらゆる経済活動にも影響しています。輸送費や温室暖房費や漁船など。

日本は どうなるの？



地球温暖化対策計画は、下図のように取り組むよう示しています。

『徹底した省エネルギーの推進』は、私たちも取り組むことになります。

諸物価の高騰につながらないよう、エネルギーの供給能力に見合う使い方をして、「品薄だから高くなる」事態を変えましょう。

コロナ禍で取り組んだ「徹底した」自粛や3密防止では、命の危機もありました。では、省エネで取り組む「徹底した」は、どの程度でしょうか。その心掛けが良いと思います。できることから。

ちなみに、下図は家庭から出している二酸化炭素の内訳です。

光熱費も気になりますが、日常生活のいろいろな場面でエネルギーを使っていることが分かります。



地球温暖化対策計画

- 徹底した省エネルギーの推進
- 再生可能エネルギーの最大限の導入
- 技術開発の一層の加速化や社会実装
- ライフスタイル・ワークスタイルの変革
- 自然生態系と共生した炭素吸収・蓄積・利用
- 失業がない労働移動での脱炭素への業態転換

エコエコサロン での語らい



11月4日に開催したNEWエコエコサロンでは、会員の大阪ガスさんと、ならコープさんから、脱炭素に向けた今後のエネルギー供給の姿や電力自由化での話題提供をいただき、私たちの「賢い選択」への理解を深める学び合いをしました。

市役所会議室に報告者と事務局含めて13名が出席し、オンラインでは4名が参加されました。



大阪ガスグループの取組

大阪ガスさんからは、「脱炭素社会に向けた都市ガス業界の取組」について、大阪ガスグループなどが取り組まれているカーボンニュートラルに向けた、2050年への二酸化炭素の回収・利用・貯蔵といった新技術の動向や、既存技術を高度化させた2030年へのメタネーションや再生電力の取組を詳しくお話しただきま



した。

ならコープにできること

ならコープさんからは、「いま私たちができること 自由化時代の電力会社選び」について、環境問題をしつかりと受け止めた「消費者運動」の立場から、組合員さんとともに、かけがえのない地球を守る活動として事業高の0.1%程度を投入し、自らの店舗・宅配事業などからの二酸化炭素削減とともに、「なら



ならコープグループ 3つの取り組み



コープでんき』で実施されている電力供給での強化など、詳しくお話しただきました。なお、今後も太陽光発電の買取（1kWhあたり12円）など、再生電力の充実を図られるそうです。

活発な意見交換

会場との意見交換では、『メタンの自然からの回収や利用は』↓これからの技術発展で、『災害でのガスパ漏れは』↓パイプの柔軟性強化で、『大阪ガスのLNG量は』↓確保が十分に、『ならコープの再生電力は』↓現在の2倍に、『電力会社の選び方は』↓パワースhiftなどウェブ検索で、など、活発でした。

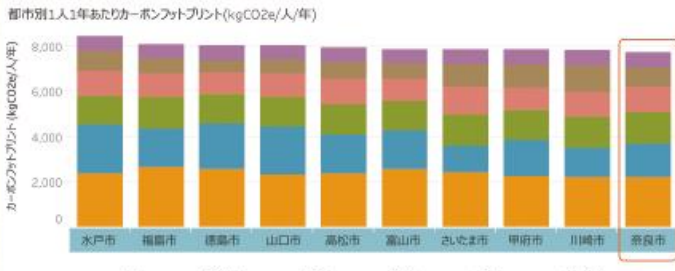
ご挨拶

コロナ感染拡大が続いていた頃は、NEWの活動も思うようにできませんでした。

しかし、世界では異常気象が各地で報告され、気候変動の影響が深刻化していると専門家が警告しています。10月にはエネルギー基本計画や地球温暖化対策計画なども見直され、日本の温暖化対策も重要な岐路に立ちます。

COP26では「1.5度目標の実現」に努力することが確認され、各国が来年末までに2030年目標の強化を検討することも合意されました。日本における脱炭素社会では、何が必要なのでしょう。例えば再生エネルギー重視の電力会社の電氣を選ぶことも多くの人々が選択すれば大きな力になります。みなさんと良い未来を想像しながら、具体策を考えていきたいと思えます。

NEW会長 清水順子



Ryu Koide, Satoshi Kojima, Keisuke Nansai, Michael Lettenmeier, Kenji Asakawa, Chen Liu, Shinsuke Murakami (2021) Exploring Carbon Footprint Reduction Pathways through Urban Lifestyle Changes: A Practical Approach Applied to Japanese Cities. Environmental Research Letters, 16 084001
 小田 龍一・小嶋 公史・菊岡 雅介・Michael Lettenmeier・瀬川 賢司・齋藤 崇・村上 進寿 (2021) 「国内52都市における脱炭素型ライフスタイルの選択策：カーボンフットプリントと削減効果データブック」より一部加工

生活の〈暮らしぶり〉 拝見



左上のグラフは、日常の「暮らしぶり」から、住居・移動・消費財の利用などを転換すれば、どれほど脱炭素になるか、主要52都市のライフスタイルをカーボンフットプリント（＝炭素の足跡）で検討されているデータ（上位10都市を抜粋）です。52都市のうち、奈良市は10位と高くなっています。

グラフでは、家計に占める分だけではなく、自身の生活のため、他人にどれ程の二酸化炭素を出させているのか、その暮らしぶりも含まれたランキングになります。

52都市での奈良市の特徴では、レジャーは少ないものの住居と食が多い傾向が見られます。光熱費に入らない食品ロスなども、結果としては他人に「地球温暖化をさせている」ことかも知れません。

お手軽で美味しい冷凍食品の値上がりも、食材の肥料や餌代、輸入コスト、それに冷凍加工・保存のエネルギー代が加わった、多くのつながりで値上げになります。

CARBON FOOTPRINT
カーボンフットプリント
 商品やサービスの原材料調達から廃棄に至るライフサイクル全体を通して排出される二酸化炭素の排出量です。
 【炭素の足跡】

賢い火の選択
 → 人類

石油価格が高止まりって、これから先、困ったことになりそう。

COP26の開催中、脱炭素化の国際的な議論の最中に、産油国は石油増産を見送る決定をしました。増産の投資は数年後に回収できないと判断されたようで、「原油高の今だけの増産」を求めている原油消費国、日本などは、化石燃料への依存度が高い姿を見せています。

自然エネルギーは日本にありますから、外国に左右されないで暮らせます。節約の意識とともに、太陽のありがたい恵みを「大切」に使う省エネ、そして直接の省エネだけでなく、「炭素の足跡」にも配慮して、賢く選択してみましょ。

皆様へのお誘い

NEWでは、市民生活での賢い選択 COOL CHOICE が促進できるように活動しています。気候変動などについてもっと詳しく知りたい方、一緒に活動してみたい方は、ぜひ事務局へお問合せください。



NEW

発行 奈良市地球温暖化対策地域協議会 (NEW)
 事務局 奈良市環境政策課内
 〒630-8580 奈良市二条大路南一丁目1番1号
 TEL : 0742-34-4591 FAX : 0742-36-5466
 メール new-nara@city.nara.lg.jp
 ウェブサイト <https://www.nara-eco-wa.net/>